

# 平成29年度事業報告

平成30年6月

公益財団法人 高速道路調査会

# 目 次

【1】	概要	1
I	公益目的事業1	1
1	調査研究事業	1
	(1) 調査研究	
	(2) 研究助成	
2	情報提供事業	5
	(1) 機関誌『高速道路と自動車』の発刊	
	(2) 「道路と交通論文賞」の表彰	
	(3) 調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等	
	(4) 講演会の開催	
	(5) 研究発表会の開催	
	(6) 海外道路情報の収集・提供	
	(7) 国際道路機関との情報交換・技術交流	
II	公益目的事業2	10
	講習等事業	10
	(1) 講習会の実施	
	(2) 高速道路の点検診断に関する資格制度	
	(3) 海外道路調査団の派遣	
	(4) 留学支援	
III	公益目的事業3	14
	展示会事業	14
	(1) 展示会の開催	
	(2) 新技術等のインターネットによる情報提供	
IV	公益目的事業4	16
	協力・支援事業	16
	(1) 「防災エキスパート」への協力・支援	
	(2) 高速道路における救急救命対策への協力・支援	
V	収益事業1	17
	調査研究事業	
【2】	組織運営	18
1	会員	18
	(1) 賛助会員	
	(2) フェロー会員	
2	評議員会、理事会	18
	(1) 評議員会	
	(2) 理事会	
	(3) 評議員選定委員会	
	(4) その他	
3	業務執行体制、内部管理体制	20
	(1) 業務執行体制について	
	(2) 内部管理体制について	
	(3) 情報管理の強化について	

## 【1】概要

平成29年度において実施する事業を、中期事業計画（平成28～30年度）に掲げる個別事業計画に沿って次のとおり取り組んだ。

### ○ 公益目的事業1

高速道路などの経済的、技術的諸課題に関する調査研究および研究助成ならびに事業活動から得られた有用な情報の提供、普及・啓発を通して科学技術の振興に寄与する事業（調査研究事業、情報提供事業）

### ○ 公益目的事業2

高速道路の建設・管理・運営に携わる人材の能力開発、技術力向上に資する講習会などの実施、海外道路調査などの機会の提供ならびに高速道路の点検診断に関する資格制度によって人材の育成を図る事業（講習等事業）

### ○ 公益目的事業3

高速道路に関する新技術・新工法、新サービスなどの普及・活用促進を図る展示会の開催などを通して技術開発を促進し高速道路の適正な建設整備、管理保全に寄与する事業（展示会事業、新技術等のインターネットによる情報提供）

### ○ 公益目的事業4

高速道路の安全性・信頼性・利便性の向上など社会に貢献する目的の事業（協力・支援事業）

### ○ 収益事業1

受託契約による調査研究および協力・支援業務の実施（調査研究事業）

## I 公益目的事業1

### 1 調査研究事業

学識経験者によって構成する「総合研究委員会」を設置し、総合的に調査研究活動の方針を審議した。この審議結果に基づき各研究部会（経済・経営研究部会、道路・交通工学研究部会、高速道路クオリティ研究部会）は、高速道路などに関する社会経済、技術や環境保全など具体的な研究テーマを設定し調査研究を行った。

#### ○ 総合研究委員会

第1回：平成29年10月26日

第2回：平成30年3月9日

#### (1) 調査研究

各研究部会は、研究課題ごとに当該分野に精通する学識経験者と経験豊富な専門家などから構成する専門研究委員会を設け、調査研究を行った。

研究にあたっては、講習等事業と連携を図り研究成果を積極的に情報発信するほか、若手研究者などとの人的ネットワークの拡充を目指した。

● **経済・経営研究部会**（根本敏則 部会長）

高速道路整備による経済効果、有料道路制度、総合交通政策および道路事業の推進や枠組み、関連する法令などについて調査研究を行った。

第1回：平成29年10月2日

第2回：平成30年2月21日

◇ **高速道路の料金制度に関する研究委員会**（杉山雅洋 委員長）

平成27年5月に公表した報告書『高速道路の料金制度に関する研究—有料道路制度と負担のあり方について—』を踏まえ、高速道路ネットワークの有効活用に資する今後の料金制度のあり方について調査研究を行った。

今年度は、有料道路制度の本質に係るディスカッションを主に行い、特に高速道路機能の持続性の担保について重点を置き「料金制度・施策」について研究を行った。さらに、ディスカッションの成果をもとに最終報告書の内容について検討を行った。（平成21年度からの継続）

第1回：平成29年6月1日

第2回：平成29年9月13日

第3回：平成29年11月30日

第4回：平成30年2月21日

◇ **高速道路を利用した物流に関する調査研究委員会**（後藤孝夫 委員長）

高速道路の交通量等および様々な経済指標を用いて、物流施設など産業拠点が高速道路IC周辺へ立地することにより、地域経済に与える影響を検証することを目的とする。

今年度は、他機関による物流の動向調査結果の情報共有、物流をキーとした高速道路の整備効果の表し方とそれに向けた研究の方向性の討議などを行った。（平成29年度新規）

第1回：平成30年3月27日

● **道路・交通工学研究部会**（藤野陽三 部会長）

高速道路の建設と維持管理の技術および交通安全対策について調査研究を行った。

第1回：平成29年10月4日

第2回：平成30年2月23日

◇ **高速道路の舗装技術史に関する調査研究委員会**（丸山暉彦 委員長）

高速道路の舗装技術は、一般道路の建設・維持管理にも広く活用されている。本研究は、高速道路の黎明期から最新技術に至るまでの舗装技術の変遷について取りまとめ、今後の維持管理に資する技術資料を作成し公表することにより、今後の舗装技術の維持・向上に貢献することを目的とする。併せて、若手技術者の技術力向上や技術の伝承を図る。

今年度は、引き続き資料の収集・整理および執筆を進めた。（平成27年度からの継続）

第1回：平成30年2月1日

◇ **高速道路の土工技術史に関する調査研究委員会**（太田秀樹 委員長）

高速道路の土工技術は、一般道路の建設・維持管理にも広く活用されている。本研究は、高速道路の土工技術の変遷を背景とともに取りまとめ公表することにより、今後の土工技術の維持・向上に貢献することを目的とする。併せて、若手技術者の技術力向上や技術の伝承を図る。

今年度は、引き続き資料の収集・整理および執筆を進め、報告書の取りまとめを行った。（平成27年度からの継続）

第1回：平成29年9月25日

◇ **高速道路の施設技術史に関する調査研究委員会**（大谷義彦 委員長）

高速道路の新設工事の減少に伴い、若手技術者のOJT（On The Job Training）の機会やベテラン技術者からの技術の伝承の機会が減少していることは明らかである。また、道路の維持管理を行ううえで管理対象となる道路施設の成り立ちを知っておくことは、技術者として大変重要なことであり、これまで道路会社が培ってきた施設技術について、特に技術の変遷をその背景等と関連付けて書き留めておく必要性は非常に高い。

本研究は、高速道路における黎明期から最新技術に至るまでの施設技術の変遷を技術資料として取りまとめることを目的とする。併せて、若手技術者の技術力向上や技術の伝承を図る。

今年度は、資料の収集・整理および執筆を進めた。（平成28年度からの継続）

第1回：平成30年3月5日

◇ **高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究委員会**（兵藤哲朗 委員長）

昨今、情報通信技術の飛躍的な発展に伴い、様々な分野においてビッグデータの活用が積極的に進められており、道路交通分野においても、車両やドライバーなどから得られる様々なビッグデータ（以下「交通ビッグデータ」という。）の活用や技術の検討が進められている。

一方、日本の社会は、高齢化による人口構造の変化や訪日外国人の増加など、様々な環境変化の局面を迎えている。

本研究は、今後の高速道路における交通ビッグデータを活用した新たなサービスの提供の方向性について研究を行うものである。

今年度は、交通ビッグデータを取り巻く状況を調査するとともに、今後の調査研究に向けて関係者との調整を行った。（平成29年度新規）

● **高速道路クオリティ研究部会**（内山久雄 委員長）

高速道路利用者へのサービス、道路機能、道路の高度活用、景観、環境および道路緑化の向上と啓発について調査研究を行った。

第1回：平成29年10月18日

第2回：平成30年3月1日

◇ **高速道路における緑の価値の定量的評価に関する調査研究委員会**（藤井英二郎 委員長）

二酸化炭素の吸収・固定や生物多様性の保全などに係わる緑の価値、安らぎや癒しに繋がる生理・生体反応、あるいは休憩施設における緑の空間がもつ経済的な価値などについて把握、評価することを目的とする。それらの成果はできるだけ分かりやすく、技術者だけでなく広く一般にアピールできるリーフレット等に取りまとめることを目指す。

今年度は、定量的評価の試算などの調査研究内容について有識者と議論を行い、研究の方向性について取りまとめを行った。（平成28年度からの継続）

【小委員会】**道路緑化技術に関する検討会**（高橋新平 座長）

高速道路における緑化や環境・景観などに関連するさまざまな技術や関連する内容について幅広く議論、検討を進めている。

今年度は、高速道路における様々な環境保全対策や植栽木の倒木リスクなどについて、現地視察も含めて検討した。（平成23年度からの継続）

第1回：平成29年4月21日

第2回：平成29年7月21日

第3回：平成29年10月26日

第4回：平成30年2月16日

◇ **高速道路の快適性向上に関する調査検討委員会**（内山久雄 委員長）

少子高齢化がより顕著となり経済成長の鈍化が見込まれ、老朽化するインフラが大きな社会的課題となる一方、自動車技術の革新的な進展がみられるなか、高速道路の機能を維持しつつ質を向上させる手法について多角的な視点から検討した。

今年度は、多様化する休憩施設利用者に対応した休憩施設のあり方について現地調査も含めて検討を行った。（平成 26 年度からの継続）

第 1 回：平成 29 年 8 月 2 日

◇ **高速道路における自動運転に関する研究委員会**（朝倉康夫 委員長）

近年、自動運転技術や ITS 技術が飛躍的に進歩し、高速道路への自動運転の導入が現実になろうとしている。本研究は、高速道路における自動運転の実現性、実効性を高めていくために、高速道路側で対応すべき事項を検討し、自動運転の早期実現に寄与することを目標として研究を行う。

今年度は、自動運転を取り巻く各分野の情報を収集するとともに関係者と情報交換し、社会に受け入れられる効率的かつ安全な自動運転の普及推進について調査研究を行い、報告書の取りまとめを行った。（平成 26 年度からの継続）

第 1 回：平成 29 年 8 月 10 日

第 2 回：平成 30 年 2 月 2 日

◇ **高速バスストップの今後のあり方に関する調査研究委員会**（田中伸治 委員長）

公共交通利用促進の観点から、高速バスストップのバス停や結節点としての機能などの高速バスストップのユーティリティ、ならびに高速バスストップを取り巻く主体間連携の状況に着目した調査研究を進め、高速バスストップの今後のあり方について調査研究することを目的とする。

今年度は、高速バスストップを取り巻く状況を整理し、今後の調査研究に向けた論点を整理した。（平成 29 年度新規）

第 1 回：平成 29 年 10 月 25 日

## (2) 研究助成

研究活動の活性化、若手研究者の育成および実務者による研究の奨励を目的として、高速道路などに関連する社会的・経済的・技術的な研究課題を公募し、応募の中から選定した研究について助成を行う。

今年度は、平成 29 年 3 月に助成決定し、4 月に助成金を振込んだ以下の 5 件の研究が行われた。

平成 29 年度 研究助成実施課題

研究課題	所属機関	代表者
空間経済学に基づく高速道路の整備効果分析	金沢大学理工研究域 准教授	高山 雄貴 氏
高速道路休憩施設立寄行動における選好特性に基づくマーケット・セグメント法の開発とそれを用いた需要創造型マーケティング施策効果分析	流通科学大学 経済学部 教授	西井 和夫 氏
ドライバー向け超軽量眼球運動計測メガネ開発と安全運転および道路行政支援に関する研究	筑波大学システム情報系 知能機能工学域 教授	星野 聖 氏
訪日外国人のレンタカーによる高速道路利用促進策に関する基礎的研究	(株)東京建設コンサルタント 部長代理	佐藤 大介 氏
交通事故に対するドライバーの認知バイアスとその解消法に関する研究	愛媛大学大学院理工学研究 科生産環境工学専攻准教授	倉内 慎也 氏

平成 30 年度の研究助成課題について、以下の活動を行い、24 件の応募の中から下表のとおり 6 件の助成課題を決定した。

- ・募集要綱の審議（平成 28 年度成果の報告もあわせて実施）
  - 経済・経営研究部会 10 月 2 日、道路・交通工学研究部会 10 月 4 日
  - 高速道路クオリティ研究部会 10 月 18 日
- ・募集要綱の決定 総合研究委員会 10 月 26 日
- ・募集期間 平成 29 年 11 月 16 日～平成 30 年 1 月 17 日
- ・助成対象の審議 経済・経営研究部会 2 月 21 日、道路・交通工学研究部会 2 月 23 日
- 高速道路クオリティ研究部会 3 月 1 日
- ・助成対象の決定 総合研究委員会 3 月 9 日

#### 平成 30 年度 研究助成決定課題

研究課題	所属機関	代表者
巨大震災による道路ネットワークの破壊がもたらす経済被害及び強靱化対策による被害軽減効果についてのマクロ経済モデル評価に関する研究	京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻 教授	藤井 聡 氏
既設鋼構造物の高力ボルト 1 面摩擦接合による当て板補修・補強に関する研究	大阪市立大学 橋梁工学分野 教授	山口 隆司 氏
さびの組成評価に基づく非塩化物系凍結防止剤の鋼材腐食速度低減法の開発	岐阜大学工学部 社会基盤工学科防災コース 准教授	木下 幸治 氏
高速道路における名神高速道路建設以来の盛土の締固め実態の検証と今後の盛土の品質管理手法のあり方に関する研究	川崎地質株式会社 参与	三嶋 信雄 氏
都市高速道路における高齢運転者の交通事故発生要因に関する研究	政策研究大学院大学 政策研究科政策専攻 准教授	日比野 直彦 氏
地域の観光イベントが高速道路交通量や休憩施設利用者数に与える影響に関する研究	東京理科大学 土木工学科 教授	寺部 慎太郎 氏

## 2 情報提供事業

学識経験者や専門家によって構成する「情報提供事業委員会」および「編集委員会」を設置し、情報提供事業の基本方針や運営方法などを審議する。この審議結果に基づき、当法人で実施した調査研究の成果ならびに海外の高速道路を含む幅広い分野の各種情報などを広く社会に普及・活用されるよう当法人のウェブサイトや機関誌などを通して発信し提供する。また、インターネットを利用した情報提供は、高速道路のサポーターの輪を拡げるといふ点で有効であり、効果的・効率的に活用できるよう当法人ウェブサイトの充実を図る。

なお、研究発表会や講演会などは、他機関の CPD（技術者継続教育）プログラムの制度を活用し、より多くの参加者を募るよう努めた。

### ○ 情報提供事業委員会

第 1 回：平成 30 年 2 月 9 日

### (1) 機関誌『高速道路と自動車』の発刊

高速道路と自動車などに関する諸問題や技術課題について取りあげる『高速道路と自動車』を毎月 1 日に発行した。本誌の編集方針および掲載内容は「編集委員会」で、「技術レポート」欄で

は投稿のあった内容を「技術レポート委員会」で審議し掲載した。

今年度は、特集として7月号では「高速道路料金」、12月号では「高速道路調査会創立60周年記念号」、2月号では「自動車用エネルギーと電動化」を企画した。

○ 編集委員会

- 第1回：平成29年5月16日
- 第2回：平成29年7月11日
- 第3回：平成29年9月15日
- 第4回：平成29年11月14日
- 第5回：平成30年1月23日
- 第6回：平成30年3月9日

◇ 技術レポート委員会

- 第1回：平成29年4月7日
- 第2回：平成29年7月7日
- 第3回：平成29年10月6日
- 第4回：平成30年1月12日

## (2) 「道路と交通論文賞」の表彰

道路と交通に係わる新進気鋭の研究者を育成し実務者による研究を奨励することを目的として、『高速道路と自動車』に投稿・掲載された研究論文を対象に「道路と交通論文賞」の表彰を行った。選考は、経済社会と技術の2部門に分け、各分野に精通する学識経験者と経験豊富な専門家で構成する「道路と交通論文賞選考委員会」で審査・選考し授賞論文を決定した。

◇ 道路と交通論文賞選考委員会

- 経済社会部門：平成29年4月14日
- 技術部門：平成29年4月25日

### 論文賞の表彰式

平成29年6月6日(定時評議員会 開催後)

表彰論文

[経済社会部門] 1編

大規模地域イベントが高速道路利用に与える効果の推定 機関誌『高速道路と自動車』平成29年3月号掲載	
野本 太一 氏 川田 恵介 氏	西日本高速道路㈱経営企画本部経営企画部調査計画課 広島大学大学院国際協力研究科准教授

[技術部門] 該当論文なし

## (3) 調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等

調査研究成果および高速道路の社会的・経済的・技術的な諸課題に関する知識などの普及・活用の促進を図ることを目的に、各種出版物の販売や閲覧サービスを行った。

また、現在販売中の書籍については必要に応じて更新等の検討を行った。

## (4) 講演会の開催

国内外の高速道路などに関する知識の普及・啓発ならびに高速道路事業への理解促進を目的として、学識経験者・官公庁・高速道路事業者および民間企業の有識者などを講師に迎え講演会を開催した。



第1回 東京

日 時	平成 29 年 6 月 30 日	
場 所	全日通霞が関ビル	
聴講者数	142 名 ※昨年度 228 名	
プログラム	[演題] 「ビッグデータと IoT、人工知能が描く未来」	[講 師] 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授 主任研究員 博士 (工学) 中西 崇文 氏
	「災害現場対応力の向上－効果的な災害復旧を実現するために－」	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長 林 春男 氏

第2回 大阪

日 時	平成 29 年 12 月 1 日	
場 所	A P 大阪駅前梅田 1 丁目	
聴講者数	93 名 ※昨年度 102 名	
プログラム	[演題] 「人工知能の正体」 ～【出張版】教えてカナコさん！ これならわかる AI 入門～	[講 師] 国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所 データ駆動知能システム研究センター 専門研究員 博士 (理学) 大西 可奈子 氏
	「ICT を活用した道路橋のモニタリング入門」	早稲田大学 名誉教授 工学博士 依田 照彦 氏

(5) 研究発表会の開催

当法人の調査研究の活動と成果や助成対象とした研究などを広く一般に公表し、普及・活用の促進を図ることを目的として研究発表会を開催し、積極的に情報発信した。

名古屋

日 時	平成 29 年 7 月 14 日	
場 所	TKP 名古屋栄カンファレンスセンター	
聴講者数	100 名 ※昨年度 106 名	
プログラム	[特別講演] 自動運転技術の実用化に向けた、日本自動車工業会の取り組み	[講 師] 一般社団法人日本自動車工業会 自動運転検討会 主査 横山 利夫 氏
	[研究発表] 高速道路の料金制度に関する研究	[発表者] 研究第一部 第一係長 宮田 真吾
	高速道路における適正な車両間隔に関する調査研究	研究第二部 副主幹 児玉 知之
	高速道路の快適性向上に関する調査研究	研究第二部 副主幹 豊田 誠
	高速道路における緑の価値の定量的評価に関する調査研究	研究第二部 調査役 佐藤 将
	(研究助成対象発表) 運転挙動・身体活動量の常時継続計測に基づく「運転ムラ」特性の把握とその交通工学的解釈	立命館大学 理工学部 准教授 塩見 康博 氏

## 東京

日 時	平成 29 年 8 月 25 日	
場 所	虎ノ門ツインビルディング	
聴講者数	166 名 ※昨年度 166 名	
プログラム	[特別講演] 自動運転技術の実用化に向けた、日本自動車工業会の 取り組み	[講 師] 一般社団法人日本自動車 工業会 自動運転検討会 副主査 近藤 晴彦 氏
	[研究発表] 高速道路の料金制度に関する研究	[発表者] 研究第一部 第一係長 宮田 真吾
	高速道路における適正な車両間隔に関する調査研究	研究第二部 道路交通担当部長 山下 知之
	高速道路の快適性向上に関する調査研究	研究第二部 副主幹 豊田 誠
	高速道路における緑の価値の定量的評価に関する調査 研究	研究第二部 調査役 佐藤 将
	(研究助成対象発表) 大型施設やハイウェイオアシスを有する S A および P A のバリアフリーに関する課題の明確化と解決策の提案	富山大学 人間発達科学部 准教授 西館 有沙 氏

## 大阪

日 時	平成 29 年 9 月 29 日	
場 所	A P 大阪駅前梅田一丁目	
聴講者数	115 名 ※昨年度 98 名	
プログラム	[特別講演] 自動運転技術の実用化に向けた、日本自動車工業会の 取り組み	[講 師] 一般社団法人日本自動車 工業会 自動運転検討会 副主査 加藤 正彦 氏
	[研究発表] 高速道路の料金制度に関する研究	[発表者] 研究第一部 第一係長 宮田 真吾
	高速道路における適正な車両間隔に関する調査研究	研究第二部 副主幹 児玉 知之
	高速道路の快適性向上に関する調査研究	研究第二部 副主幹 豊田 誠
	(研究助成対象発表) 広域避難者の移動における高速道路の役割に関する研 究	東北大学 災害科学国際研究所 教授 奥村 誠 氏
	(研究助成対象発表) 長時間継続地震動下における鋼構造物の低サイクル疲 労対策に関する研究	名古屋大学大学院 工学研究科 教授 舘石 和雄 氏

## (6) 海外道路情報の収集・提供

海外の道路関係機関で発行している機関誌や公表している報告書・ウェブサイトなどから日本の高速道路事業に有益と考えられる情報や当法人で実施した調査研究活動の中で収集した海外の道路関連情報を当法人の機関誌やウェブサイトを通して広く一般に提供した。

『高速道路と自動車』[海外ニュース]での提供

掲載内容	道路事業全般、建設、維持管理、有料道路経営、料金、環境、情報提供、ITS、新技術・新工法 など
掲載件数	145 件 (平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

また、今年度2回実施した「海外道路調査団」に関する概要報告書を当法人ウェブサイトに掲載した。

## (7) 国際道路機関との情報交換・技術交流

海外の高速道路における経済・技術に関する情報を収集することを目的として、道路関係の国際機関に加盟し、各機関が主催する国際会議への参加を通して、情報交換や技術的・人的な交流などを行った。

今年度は、WRA-PIARC、IRF、REAAA、TRB、EASTS-JAPAN、IBTTA に継続して加盟し、収集した有益な情報は、調査研究の基礎資料として利用するとともに、当法人の機関誌やウェブサイトなどを通じて広く一般に発信した。

### 国際会議への参加

#### 第107回 REAAA 評議委員会

開催日	平成29年7月19日～21日
開催場所	マニラ(フィリピン)
参加者	日本高速道路インターナショナル株式会社 代表取締役社長 黒田 孝次 氏 (当法人 顧問)

機関誌『高速道路と自動車』平成29年10月号掲載

#### REAAA 評議委員会中間会議

開催日	平成29年11月7日
開催場所	クアラルンプール(マレーシア)
参加者	日本高速道路インターナショナル株式会社 代表取締役社長 黒田 孝次 氏 (当法人 顧問)

機関誌『高速道路と自動車』平成30年2月号掲載

#### 第97回 TRB 年次総会

開催日	平成30年1月7日～11日
開催場所	ワシントンDC(アメリカ)
参加者	研究第一部 主幹

機関誌『高速道路と自動車』平成30年4月号掲載

### <加盟団体>

機関名略称	機関名	本部
WRA-PIARC	World Road Association-Permanent International Association for Road Congress (世界道路協会)	フランス
IRF	International Road Federation (国際道路連盟)	アメリカ
REAAA	Road Engineering Association of Asia & Australasia (アジア・オーストラレイシア道路技術協会)	マレーシア
TRB	Transportation Research Board (交通運輸研究会議)	アメリカ
EASTS-Japan	Eastern Asia Society for Transportation Studies-Japan (アジア交通学会)	日本
IBTTA	International Bridge, Tunnel and Turnpike Association (国際有料道路協会)	アメリカ

## II 公益目的事業2

### 講習等事業

学識経験者や高速道路事業の専門家などにより構成する「講習等事業委員会」を設置し講習会の開催企画や海外道路調査団の派遣ならびに海外に留学する者への支援などを審議した。

講習会は、高速道路の建設・管理・運営に携わる人材の育成を効果的・効率的に進めるため、関係機関と調整しニーズを見極めるとともに、当法人の調査研究事業の蓄積や幅広い人的ネットワークなどの特徴を活かして企画・運営し継続的に充実を図った。

○ 講習等事業委員会

第1回：平成29年6月21日

第2回：平成30年3月23日

#### (1) 講習会の実施

高速道路の建設と維持管理の業務に携わる技術者の技術力向上を目的とした「建設・管理技術向上に資するための講習会」や高速道路の保全管理業務の安全性向上のための「保全安全管理に関する講習会」ならびに今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした「有料道路制度・料金制度に関する研修会」を継続して開催した。

● 建設・管理技術向上に資するための講習会

高速道路の建設・維持管理に携わる技術者の技術力向上を目的とした気象、防災や交通安全などに関する専門性の高い講習会および電気・通信・機械など設備機器などに関する実務者向け講習会を開催した。

8プログラム20コース 受講者数1,495名／募集者数1,378名

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
① 気象と雪氷対策講習会	8月21日	東京都港区	46名／40名
② 高速道路の交通安全に関する講習会	12月4～5日	東京都港区	26名／30名
③ 高速道路の防災に関する講習会	9月25日	東京都港区	23名／30名
④ 高速道路の保全リスクに関する講習会	11月1～2日	東京都港区	28名／30名
⑤ 実務者講習会			
土木技術者現場講習会	7月6～7日	神奈川県横浜市	18名／20名
高速道路の斜面防災	6月19日	東京都港区	41名／30名
⑥ 施設技術者実務講習会			
CCTV設備	8月28～29日	福島県郡山市	33名／30名
トンネル非常用設備	5月29～30日	埼玉県熊谷市	34名／30名
可変式道路情報板設備	10月12～13日	愛知県あま市	34名／30名
交通量計測設備	7月18～19日	大阪府大阪市	28名／28名
自家発電設備	9月11～12日	滋賀県長浜市	21名／20名
ETC設備	6月22～23日	神奈川県横浜市	26名／30名
受配電設備	9月21～22日	山口県岩国市	18名／20名
伝送設備	11月9～10日	東京都港区	18名／20名
⑦ 植栽実務講習会	10月19～20日	福岡県福岡市	18名／20名
⑧ 高速道路の現場監理に関する講習会			

土木系 第1回	9月1日	東京都新宿区	432名/250名
施設系 第1回	9月1日	東京都新宿区	104名/150名
土木系 第2回	9月8日	大阪府大阪市	215名/150名
土木系 第3回	3月2日	東京都新宿区	266名/300名
施設系 第2回	3月2日	東京都新宿区	66名/120名

### ● 保全安全管理に関する講習会

高速道路上の交通規制を伴う作業を統括する立場の技術者として、作業の安全性および作業従事者の安全を確保するための知識の向上と、現場指導を行う上での能力の向上を目的とした講習会を開催した。

1プログラム8コース 受講者数3,173名/募集者数3,100名

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/募集者数
保全安全管理に関する講習会			
夏期 東京①	8月3日	東京都中央区	482名/570名
夏期 東京②	8月4日	東京都中央区	454名/570名
夏期 大阪①	7月27日	大阪府大阪市	468名/380名
夏期 大阪②	7月28日	大阪府大阪市	300名/380名
冬期 東京①	1月18日	東京都中央区	435名/350名
冬期 東京②	1月19日	東京都中央区	435名/350名
冬期 大阪①	1月11日	大阪府大阪市	312名/250名
冬期 大阪②	1月12日	大阪府大阪市	287名/250名

### ● 有料道路制度・料金制度に関する研修会

有料道路制度・料金制度について、研修生と学識経験者および実務経験者とのディスカッションや当法人における調査研究事業で蓄積した知見を活用し、さまざまな観点から考察することにより、今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした研修会を開催した。

年7回シリーズ 1プログラム1コース

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/募集者数
有料道路制度・料金制度に関する研修会	第1回 5月19日 第2回 7月3日～4日 第3回 8月3日～4日 第4回 9月11日～12日 第5回 10月10日～11日 第6回 12月11日～12日 第7回 1月16日～17日	東京都港区	9名/10名

## (2) 高速道路の点検診断に関する資格制度

高速道路における点検診断業務を的確に実施できる技術者の育成と技術力向上を目的とした点検診断講習および試験を平成27年度より実施している。

試験合格者へ資格を付与する「高速道路点検診断資格制度」の制度運営のため「高速道路点検診断資格委員会」を設置し、講習の内容や資格試験の実施方法を審議し、承認を得て実行した。

#### ○ 高速道路点検診断資格委員会

第1回：平成29年5月18日

第2回：平成29年8月7日

第3回：平成30年1月15日

受講者数 3,200名（土木1,606名、施設1,594名）

(参考) 昨年度受講者数 2,508名 (土木 1,362名、施設 1,146名)

開催概要

区分	開催日	開催場所
講習会 (土木・施設)	9月14～15日	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡
資格試験 (土木)	10月22～23日	東京、名古屋、大阪
資格試験 (施設)	10月22日	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島 福岡

- ・ 合格証、試験結果通知送付 平成30年1月24日
- ・ 資格登録申込期間 平成30年1月25日～2月20日
- ・ 資格者証送付 平成30年3月14日
- ・ 資格付与者数 総計 2,186名  
 (土木) 診断士 109名・点検士 274名・点検士補 672名  
 (施設) 診断士 120名・点検士 487名・点検士補 524名

なお、本資格制度における『高速道路点検診断士 (土木)』、『高速道路点検士 (土木)』は平成30年2月27日付けで『公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録規程 (平成26年国土交通省告示1107号)』に基づき下表のとおり登録された。

資格名称	施設分野	業務	知識・技術を求める者
高速道路点検診断士 (土木)	橋梁 (鋼橋)	点検	担当技術者
		診断	担当技術者
	橋梁 (コンクリート橋)	点検	担当技術者
		診断	担当技術者
	トンネル	点検	担当技術者
		診断	担当技術者
高速道路点検士 (土木)	橋梁 (鋼橋)	点検	担当技術者
	橋梁 (コンクリート橋)	点検	担当技術者
	トンネル	点検	担当技術者

### (3) 海外道路調査団の派遣

海外の高速道路に関する最新の話題や建設事業または維持・交通管理の現場に着目し、現地における調査や意見交換を通して理解を深める機会を提供することを目的として、海外道路調査団を派遣した。

#### 第59回海外道路調査団

調査期間	平成29年7月4日～7月10日 (7日間)
調査内容	米国における交通安全対策および交通運用に関する海外調査
参加人数	24名
訪問国	アメリカ (カリフォルニア州サンディエゴ)

機関誌『高速道路と自動車』平成29年11月号掲載

#### 第60回海外道路調査団

調査期間	平成29年10月26日～11月1日 (7日間)
調査内容	東南アジアにおける官民連携事業、アセットマネジメントシステム、交通情報収集・提供および日本企業の国際協力業務
参加人数	13名
訪問国	ミャンマー (ネピドー、ヤンゴン)

機関誌『高速道路と自動車』平成30年3月号掲載

#### (4) 留学支援

人材育成の一環で、道路および道路交通に関する経済的・技術的な研究を目的とした海外留学希望者に助成支援をするもので、外部専門機関の語学力試験結果をもとに支援候補者を選定した。

平成 30 年度候補者の募集：平成 29 年 4 月 3 日～ 5 月 12 日

平成 30 年度候補者の選定：平成 29 年 6 月 21 日

また、平成 28 年度実施の第 52 回支援対象者 2 名が渡航し、留学助成金 30 万円を支援した。対象者の留学先および所属は以下のとおりである。

募集回数 (実施年度)	留学先 (学校名など)	渡航先	専攻	課程	所属
第 52 回 (平成 28 年度)	エジンバラ・ネピア大学 交通研究所	英国	工学	客員研究員	阪神高速道路(株)
	ピッツバーグ大学	米国	工学	修士	西日本高速道路(株)

### Ⅲ 公益目的事業 3

#### 展示会事業

高速道路事業の専門家により構成する「情報提供事業委員会」のもとに、展示会「ハイウェイテクノフェア」(以下、「展示会」という。)の主催者および共催者からなる「ハイウェイテクノフェア実行委員会」を設置し開催方針や運営方法について審議した。

展示会は、高速道路事業や高速道路を支える最先端技術を紹介し社会一般の理解を深めるとともに、技術開発に携わる企業などには情報交換あるいは広報の機会を提供して技術の普及促進を図ることを目的に開催した。

また、当法人ウェブサイト「新技術電子カタログ」に、賛助会員および展示会出展者から提供される技術情報を掲載し広く一般への情報提供も行った。

- ハイウェイテクノフェア実行委員会

第1回：平成29年7月11日

#### (1) 展示会の開催

展示会「ハイウェイテクノフェア2017」を開催した。

今年度は、前年度と同規模の会場を確保し多方面から出展者を募るとともに、昨今話題となる技術テーマを注目出展とし展示会の充実を図った。

また、公益社団法人土木学会、公益社団法人地盤工学会ならびに公益社団法人プレストレストコンクリート工学会の後援を継続して依頼し、他機関のCPD(技術者継続教育)プログラムの制度を活用して広く出展者を募った。

#### 展示会

展示会名	「ハイウェイテクノフェア2017ー高速道路を支える最先端技術」
会期	平成29年11月21日(火)～22日(水)
場所	東京国際展示場(東京ビッグサイト) 東7・8ホール
主催	公益財団法人高速道路調査会
共催	東日本高速道路株式会社 中日本高速道路株式会社 西日本高速道路株式会社
後援	公益社団法人土木学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人プレストレストコンクリート工学会
出展者数	282名 ※昨年度259名
出展技術	注目出展技術:「インフラ建設・管理の生産性向上に役立つ技術」
来場者数	20,700名 ※昨年度20,290名

#### ハイウェイテクノフェア講演会

演題	テレビで言えない天気の話 ～気象予測と防災～
講師	森田 正光 氏 お天気キャスター・気象予報士
日時	平成29年11月22日(水) 13:00～14:30
場所	東京ビッグサイトレセプションホールB
聴講者数	480名 ※昨年度446名

#### (2) 新技術等のインターネットによる情報提供

技術情報収集の効率化、企業の技術開発支援や新技術などの普及促進を目的として、賛助会員および展示会出展者から提供された新技術・新工法・新製品に関する技術情報をデータベース化



した「新技術電子カタログ」を当法人のウェブサイトを提供している。

新技術電子カタログ掲載内容の充実を図るため、展示会出展者への登録案内のほか既登録企業に対してカタログ情報の更新依頼を行い、情報の質と量の向上を図った。

## IV 公益目的事業 4

### 協力・支援事業

高速道路上の災害などへの諸対策や高速道路における救急救命対策への協力・支援など、社会に貢献する事業を実施した。

#### (1) 「防災エキスパート」への協力・支援

高速道路などにおける大規模災害発生時の支援や平常時の点検・訓練・技術力の向上および技術伝承などについて、高速道路の建設・管理に従事した経験者のボランティアからなる「防災エキスパート」活動を支援した。

事務局本部を当法人に設置し全国各地に 10 支部を配置しており、平成 29 年度末の会員登録数は 563 名である。

今年度は、定期点検活動および全国各支部で開催された講演会などに延べ 612 名の会員が活動をした。

- 運営幹事会  
第 1 回：平成 29 年 12 月 18 日
- 運営連絡会  
第 1 回：平成 30 年 2 月 26 日

#### (2) 高速道路における救急救命対策への協力・支援

高速道路および休憩施設等の事業の関係者に心疾病に関する講義を含む A E D 実技講習会を開催した。

今年度は、高速道路事業関係者に A E D 実技講習会を実施し、総数 154 カ所の会場で講習会を開催。延べ 1,972 名（昨年度実績 1,067 名）が参加した。

## V 収益事業 1

### 調査研究事業

高速道路などの社会的・経済的・技術的な諸課題の研究に関連して、当法人での活動実績や能力の優位性を活かし受託契約などによる調査研究を行った。

平成 29 年度に実施した受託契約による調査研究は、12 件である。

<主な調査研究>

#### 【平成 28 年度契約（継続）】

- ・ 道路管理史編集業務  
ある道路の供用から現在に至る管理の歴史を編集する業務
- ・ 高速道路アーカイブ事業運営業務  
高速道路の料金・設計・施工等の歴史を振り返るうえで貴重な資料を収集および整理する業務

#### 【平成 29 年度契約（新規）】

- ・ 道路技術誌編集業務  
ある道路の建設に係わった方にインタビューを行い、技術誌として編集する業務
- ・ 海外における点検技術動向調査業務  
海外の高速道路構造物の点検の取り組みを調査する業務
- ・ 交通安全啓発に関する広報検討及びコンテンツ作成業務  
高速道路の利用者に向け、啓発コンテンツを作成する業務
- ・ 高速道路の緑化資料集作成業務  
ある地域の高速道路について、緑化資料集を作成する業務
- ・ 欧米の高速道路に関する情報収集業務  
欧米の高速道路について、交通政策や運営、課金等を調査する業務

## 【2】組織運営

### 1 会員

#### (1) 賛助会員

平成 29 年度末の賛助会員数は、法人会員 372 団体、個人会員 14 名で、賛助会費の合計は 16,792 万円であった。今年度中における賛助会員数の動向については、法人会員 9 団体、個人会員 1 名の新規加入に対し、退会は法人会員 4 団体、個人会員 2 名であった。

なお、ウェブサイトやメールマガジン等を活用して当法人の事業への理解や協力を得られるよう情報発信に努めた。

#### (2) フェロー会員

学識経験者等に対し、当法人の活動趣旨に賛同を得た方をフェロー会員として登録し、引き続き当法人の事業への参画・協力を得られるよう努めた。(平成 29 年度末時点 167 名登録)

### 2 評議員会、理事会

平成 28 年度事業報告および決算、平成 30 年度事業計画書および収支予算書などについて、評議員会および理事会などを適宜開催した。

#### (1) 評議員会

##### 第 11 回 評議員会(定時)

開催日	平成 29 年 6 月 6 日
開催場所	ルポール麹町
出席など	出席 10 名・欠席 7 名(決議に必要な出席評議員の数 9 名)
議事事項	(報告) 平成 28 年度事業報告
	(決議) 平成 28 年度決算の承認
	(決議) 理事の選任
	(報告) 理事会決定事項の報告

##### 第 12 回 評議員会(臨時)

開催日	平成 30 年 3 月 26 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 11 名・欠席 6 名(決議に必要な出席評議員の数 9 名)
議事事項	(報告) 平成 30 年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類
	(決議) 規則の一部改正
	(決議) 監事の選任
	(報告) 理事会決定事項の報告

#### (2) 理事会

##### 第 21 回 理事会(通常)

開催日	平成 29 年 5 月 12 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 9 名・欠席なし 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告
	(決議) 平成 28 年度事業報告の承認
	(決議) 平成 28 年度決算の承認

	(決議) 理事候補者の推薦
	(決議) 顧問の委嘱
	(決議) 役員との賠償責任限定契約の締結
	(決議) 第 11 回定時評議員会の招集の決定

#### 第 22 回 理事会(決議の省略)

決議があったものとみなされた日	平成 29 年 6 月 1 日
決議があったものとみなされた事項	事務局組織の変更に伴う規程の一部改正

#### 第 23 回 理事会(臨時)

開催日	平成 29 年 10 月 13 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 7 名・欠席 2 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 評議員候補者の推薦 (決議) 規程の改正

#### 第 24 回 理事会(通常)

開催日	平成 30 年 3 月 12 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 7 名・欠席 2 名 監事 1 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 平成 30 年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類 (決議) 規則の一部改正の提案 (決議) 規程の一部改正 (決議) 監事候補者の推薦 (決議) 役員との賠償責任限定契約の締結 (決議) 第 12 回臨時評議員会の招集の決定

### (3) 評議員選定委員会

#### 第 7 回 評議員選定委員会

開催日	平成 29 年 12 月 15 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席委員 5 名 (うち外部委員 3 名)、欠席 1 名 (決議に必要な出席委員の数 4 名(うち外部委員 2 名以上))
議事事項	評議員の選任

### (4) その他

#### 監事監査 および 第 12 回 監事意見交換会

開催日	平成 29 年 5 月 9 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事 2 名 公益財団法人高速道路調査会 役職員 7 名
議事事項	平成 28 年度監事監査 理事会議案説明

### 第13回 監事意見交換会

開催日	平成29年10月11日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事2名 公益財団法人高速道路調査会 役職員4名
議事事項	理事会議案説明

### 第14回 監事意見交換会

開催日	平成30年3月2日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事1名 公益財団法人高速道路調査会 役職員4名
議事事項	理事会議案説明

## 3 業務執行体制、内部管理体制

### (1) 業務執行体制について

事業規模、事業内容に則して適切な組織・人員を配置するよう計画するとともに、事業執行状況を見極めたうえで、必要に応じて人員配置の見直しを適宜行った。

(平成29年度末時点 事務局総数34人)

### (2) 内部管理体制について

当法人のガバナンス・コンプライアンス・ディスクロージャーの指針に基づき整備した内部規則の遵守を継続し、社会規範に従い誠実な業務の執行に努めた。

### (3) 情報管理の強化について

当法人が保有する個人情報や情報システムの保護・管理を強固にするため、各種対策を実施した。

- ・マイナンバーシステム管理方法の見直し
- ・メール添付ファイルの暗号化
- ・社内システムサーバーのクラウド化
- ・企業ウェブサイトの刷新